

J小 K先生のあたりまえ

その① 「題材や材料との出会いを大切にする」

題材や材料との出会いを大切に指し導計画を立てることで、児童の期待感が膨らみ、課題意識を高めることができている。

「なが〜い紙から」(1年)では、長いものをイメージできるような絵本の読み聞かせを行った。また、「あったらいいなと思う長いものは何」と考える活動を通して、一人一人の表現主題を明確にもたせることができた。「かみからうまれた ビリビリくん へんしん！」(1年)(以下「ビリビリくん！」)では、ちぎった紙の形から児童が発見したことを「これは何に見えるかな」と友達同士でクイズを出し合い、形を基にイメージしたことを絵で表す活動につなげていった。

出会いの工夫によって、児童は自分達で学習のめあてを考え、意欲的に題材と向かうことができた。



その② 「試す場と交流する場の設定」

自分の思いを表現することに時間が掛かる児童や、描きたくても描き方が分からなかったり、イメージ通りの形や色でないと意欲をなくしてしまったりする児童のために『お試しコーナー』や『お試しタイム』を設けている。「なかよしの木」(2年)では、スタンプを試すコーナーを設置した。『お試しコーナー』で試行錯誤を繰り返しながら何度も試すことで、安心して自分のイメージを表現する姿が見られた。また、「ビリビリくん！」では、ちぎった紙をすぐに貼り付けず、向きを変えたり、並べ方を変えたりして素材でたっぷり遊ぶ時間を設けた。児童は、頭の中で思いを巡らせ、発想する楽しさを十分に味わっていた。

また、児童の動線を考えて、『材料コーナー』を設置している。机の並べ方や作業スペース、グループ編成も題材や児童の描きたいことに合わせるように心掛けている。そうすることで、自然に他の児童の表現に触れ、交流する姿が見られ、個々の表現が豊かになるきっかけとなった。



その③ 「ICTの活用」

児童が学習の見直しをもったり、学習したことを振り返ったりするためにICTを活用している。

「ビリビリくん！」では、選ぶ紙の色で、イメージが変わることを画像で提示した。児童から「ビリビリくんが野原にいるみたい」「夜の世界に行った」「宇宙にいるかもしれない」などの考えが生まれた。互いに交流しながらイメージを膨らませ、見直しをもたせるのに効果的だった。また、タブレットで活動前と活動後の写真を記録し比較するこ



とで、個々の学習成果を確認し、次の学習への見直しをもつことができる。ちぎった紙でいろいろな並べ方を試し、児童が自分でタブレットに記録した。イメージに合う並べ方を確かめたり、作品が変化していく様子を確認したりすることで学習の成果を実感していた。

タブレットの中に蓄積した、自分の作品や制作過程の画像は、きっとこの後の学習で表現方法のヒントになっていくと考える。

